

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
植山委員	<p>テーマ① 「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」 テーマ② 「地域における子育ての支援」</p> <p>『幼児期の教育・保育の環境整備』 保育所の運動会や発表会などの行事が土曜日に開催されることが多いのが気になります。土曜日に休みがとれる人は限られているのではないのでしょうか？ 母親だけかろうじて年休をとって参観し、父親は仕事で不在のご家庭を多く見受けれます。主催者側は大変でしょうけれど、保護者が参加・参観する行事はできるだけ日曜に開催することを促してはいかがでしょうか？ 行事を通して我が子の成長を見守ることで親子の絆がさらに深まるのだと思います。</p> <p>テーマ③ 「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</p> <p>子どもにとって安全・安心ということは母親にとっても安全ということだと思います。 最近は街中で自転車に幼児を載せて買い物や病院通いなどをしている保護者の姿をよくみかけますが、駐輪場の不足と不便さがあるようです。 ご配慮いただけましたらと思います。</p>
大塚委員	<p>テーマ② 「地域における子育ての支援」</p> <p>『自治会と子育て世帯の関わり』 子育て世帯にとって、最も「身近な地域」であるはずの自治会（町内会）が子育て世帯と関わりが持っていないと感じています。子育て世帯、特に未就園児世帯も積極的に自治会運営に関わっている事例などあれば知りたいです。 私自身、評議員および防災士として都市部の自治会に参加していますが、基本的に、自治会の意思決定に関わる子育て世帯は、子供会の会長さんのみです。その子供会会長さんも1年ごとに入れ替わる為、自治会役員と顔をつなぎ、自治会運営を把握し、大きく関わることは難しいようです。 共働き世帯が増え、親子の忙しさは増し、自治会活動に関わる余裕が無い、都市部では特に地域住民のつながりが薄れ、自治会側が子育て世帯にアプローチしづらいうという事情があるのだと感じています。 けれどこのままでは、自治会と子育て世帯の断絶が続いたままでは、地域社会の担い手は確保できない・育っていかないと危機感を覚えます。</p>

委員名	ご意見等
大塚委員	<p>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</p> <p>『防災』 東日本大震災では、岩手・宮城・福島県内で犠牲になった園児・小中学生の8割強が、(学校管理下を離れた)自宅や下校中など、家庭や地域が守るはずだった子供たちだったという資料を見ました。</p> <p>(出展) https://www.spf.org/opri-j/projects/information/newsletter/backnumber/2012/293_2.html</p> <p>一部地域では防災意識が高いとは言えない大分県ではもっと被害が広がるのではないか、子供はもちろん大人や地域への啓発も続けていく必要があると強く感じています。</p>
岡田委員	<p><u>テーマ① 「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></p> <p>『口も手も出す子育て支援のネットワーク』 核家族化や地域教育力の低下を背景に、孤立して子育てをしている家庭が増加している。子育てに関する相談や支援が届きやすいように、お互いに口も手も出す子育て支援のネットワークが必要だと考える。一方ではPTAなど親の組織から、他方では自治会や青少協など地域組織の側から子育て家庭に目が届き、口も手も出せる関係の増加を目指したい。</p> <p><u>テーマ② 「地域における子育ての支援」</u></p> <p>『子育て支援事業のメタ分析』 個々の子育て支援についてはそれぞれ少なからぬ努力が行われていると感じている。しかし、地域における子育て支援全体を鳥瞰すると、それぞれの取り組みの連携や全体の位置づけのなかでの重要度など考えるべき事柄も少なくない。個々の事業を超えた子育て支援のあり方をメタレベルで検討すべきではなかろうか。</p> <p><u>テーマ③ 「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></p> <p>『子育て環境の全体マップ』 子育てしやすいまちづくり(環境整備)については様々な取り組みが考えられ、現状や取り組みに掲載されているのは、一部に過ぎないと感じる。そこで、教育や運動などとの関係も視野に入れながら環境整備に向けてどのような取り組みが必要かを多角的に検討する必要があると考える。</p>

委員名	ご意見等
衣笠委員	<p><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></p> <p>私が関わっている実践や現場の状況を見ても、「親に十分に養育されない子ども」がこんなにいるのか、と驚きます。しかし社会の中には、「親が悪い」「親の責任だ」という意識がまだまだ高いように思われます。</p> <p>また、子育てを十分にできない親の生活背景もさまざまで、親自身が虐待の経験を持っていたり、養育放棄がされたケースも少なくありません。そういう意味では、子どもを「親が育てる」というよりは、「社会全体が子育ての受け皿になる」という意識の改革が必要になると思います。最終的には、子育ての責任は親ではなく、社会にあると言うことを明確にすると言うことですね。</p> <p><u>テーマ②「地域の子育ての支援」</u></p> <p>この場合、「地域」が何を指すのかによって大いに意味が異なりますが、私の専門である地域福祉の観点から言いますと、多様な住民がさまざまな形で子育てに「参加」できる場を創ることが大切であろうと思います。</p> <p>そのためには「コミュニティ・エンパワメント」と呼ばれる、地域住民の持っている力を引き出すような地域組織化の手法が不可欠です。地域の中で養育に欠ける児童も多数いますし、その早期発見に向けても、地域の子育て支援の基礎となる「地域づくり」の視点が必要であると思います。</p> <p><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></p> <p>これも何を持って「安全」とするのか、ということにも依りますが、地域の中で、子ども達を「孤立させない」、要するに「置き去りにしない」ような関わりのあり方が必要になってくるかと思います。</p> <p>ここでも、キーワードは「参加」です。地域住民が積極的に子育てに参加しながら、養育に欠ける児童を護り、子ども達の安全を確保するような、そんな地域づくりが求められていると思います。また、これは子ども達だけではなく、高齢者や生活困窮者など、社会の中で弱い立場に置かれている人たちにも同じことが言えます。子どもに優しい地域社会は、お年寄りにも、生活弱者にも優しいのです。そのような地域社会をどのように創っていくのか、具体的な議論をお願いできれば幸いです。</p>
堤委員	<p><u>テーマ② 「地域における子育ての支援」</u></p> <p>放課後児童クラブ数も増え、支援者（先生）の質の向上をはかるための研修会も重ねられてきていますが、幼稚園児も入れるようなクラブができればもっといいなと思います。</p>

委員名	ご意見等
藤原剛 委員	<p>テーマ① 「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</p> <p>『子どもの人権を尊重する意識づくり』</p> <p>子ども達へのいじめ等の教育はありますが、親に対しての「子どもの人権」教育は無いように思います（私が知らないだけかもしれませんが）。PTAが参加する校区や地区の自治会が行う人権教育は部落差別が中心です。親に対する「子どもの人権」教育を行う必要があると思います。</p> <p>以前大分市PTA連合会でいじめについての講演会とワークショップを実施しましたが、思っていたよりも多くの方がいじめについて悩んでいました（被害、加害の両方で）。ぜひ学ぶ場を設けて欲しいと思います。</p> <p>テーマ③ 「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</p> <p>『子どもを交通事故から守る環境づくり』</p> <p>チャイルドシートについてはまだまだ使用していない人を見受けられます。</p> <p>チャイルドシートの値段が高い事も使用率が上がらない一つの要因ではと思います。知人がチャイルドシートのレンタルをやっていますが、利用する人が多いと言っていました。</p> <p>チャイルドシートのレンタル（一部の市で実施）や購入補助等があると良いと思います。</p> <p>『安心して外出できる環境づくり』</p> <p>バリアフリーマップの情報提供の項目として、「小さい子どもと利用しやすい飲食店」を追加して欲しいと思います。私は子どもが小さい時に外食で気にしていたのは、①和室がある。②個室がある。でした。事前にお店に電話をして確認していました。</p> <p>ぜひマップに取り入れて欲しいと思います。</p>

委員名	ご意見等
松田委員	<p>テーマ① 「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</p> <p>『10月は里親月間』 地域で暮らす里子や里親のこと、又特別な環境のみならず、何らかの障がい、又は虐待等による二次障がいをもつ児童に対する理解を広める為の講座に関心のある方だけが聴くのではなく、もっと公で聴く機会ももうけてもらいたい。</p> <p>テーマ② 「地域における子育ての支援」</p> <p>『障がい児・者の支援者の公共機関の割引きについて』 JRでは支援する者の料金も負担軽減されているが、他の公共機関（例：プール、映画・美術館等）では、障がい児・者が社会参加する為の支援者（ヘルパー含む）分も必要になる。 その負担軽減できるようになるとありがたいです。</p> <p>テーマ③ 「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</p> <p>『歩行空間の確保』 今年度、登校時間に横断歩道を横断中の女性が事故死、その現場を見聞きした児童は怖くて団地から出られずにいた。未だ歩道の整備ができていない箇所もあり、着工のめどはあるのか等、説明が地域や学校にしてもらえたら、安心して登下校できるでしょう。</p>
渡部委員	<p>テーマ③子どもにとって安全・安心なまちづくり</p> <p>「子育てしやすい生活環境づくり」についての取り組みに三世代同居を促進するリフォーム工事への補助が挙げられていますが、多くの子育て世帯が利用できるような住環境に関する施策もあるといいなと思います。</p> <p>県の住生活基本計画の資料によると、現在の子育て世帯の誘導居住面積水準だと、夫婦十二人の子どもの場合には125平方メートルが基準となり、県内の達成率は平成25年で41.9%です。ただ、125平方メートルをクリアする物件は戸建がほとんどで、マンション住まいが多い都市部ではあまり現実的な数字ではないと考えます。</p> <p>例えば、面積や住環境でも県独自の目標を定めてもよいのではないのでしょうか。そのためには、居住面積の違いによる生活の満足度も含めて、子育て世帯の生活実態を反映できる基礎調査が必要にならうかと思います。</p>